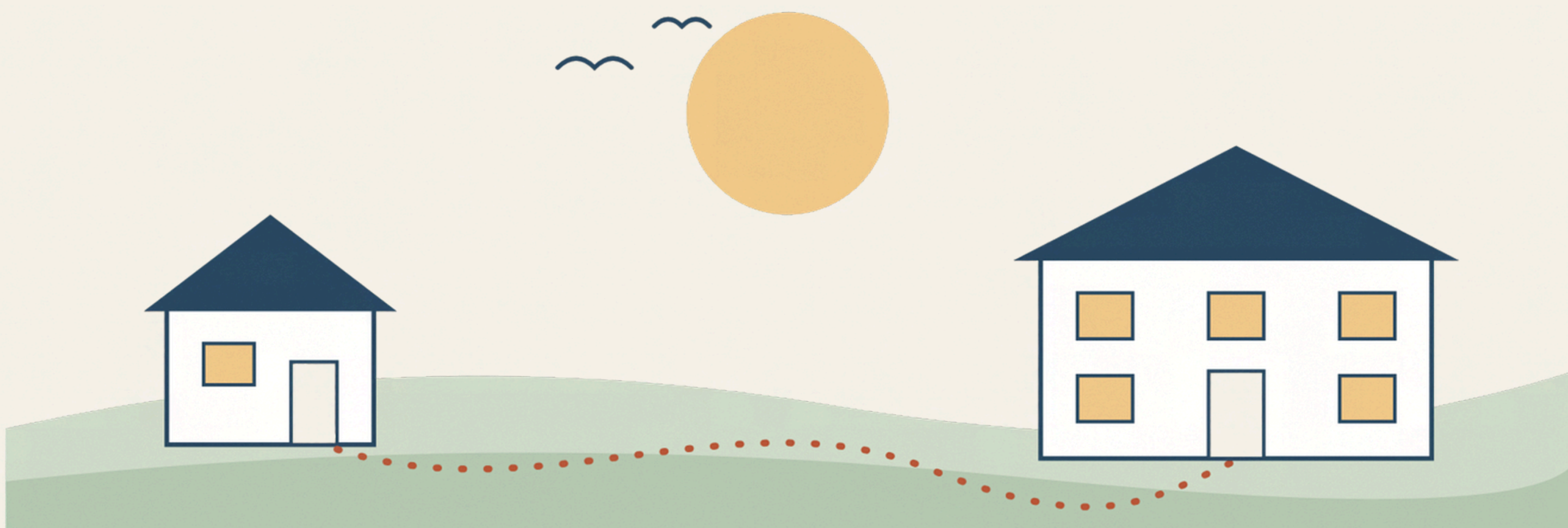




離れてはじめて、 見えてくるものがある。

シンポジウム

共同生活型支援の意義と効果

～第三者との関わり・家（家族）から離れて見えてくるもの～

ひきこもりの状態にある人は、いま全国で146万人。もはや家族だけで抱えきれない問題ではありません。家の外で、家族ではない「第三者」と日々をともにする——共同生活型支援がもつ意義と効果を、現場の実践から問い直します。



基調講演

津富 宏 先生

静岡県立大学 名誉教授/
立教大学コミュニティ福祉学部 特任教授

- 共同生活型支援7団体のご紹介
- 当事者も登壇するシンポジウム
- 個別相談ブース（開演前・終了後）

2026 **11.22**（日） 13:00-17:00 開場 12:00

会場

国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟416
東京都渋谷区代々木神園町3-1

参加費：無料 | 定員：100名

対象：ひきこもりの子を持つ親御さん・支援者



お申し込みフォーム

本シンポジウムについて

「ひきこもり」の状態にある人は、いま全国で146万人。かつて若者自立塾（2005～2009年度）が各地で運営されていた頃の約60万人から大きく増え、年齢層も上がり、不登校の子どもたちも増え（小中学生で35万人強）続けています。もはや家族だけで抱えきれぬ問題ではありません。

家の外に出て、家族でない「第三者」と日々をともにする。朝起きて、食事をつくり、掃除をし、動き、誰かと言葉を交わす。共同生活型支援の場には、そうした当たり前の営みが積み重なっています。仲間と体験活動のなかで、できなかったことが少しずつできるようになる。生活や自身の気持ちを前向きに捉える力が身についていく。それは訓練としてではなく、暮らしそのものを通して育まれる「生きる力」です。

家族から離れてはじめて、本人にも、家族にも見えてくるものがあります。それは矯正でも更生でもなく、一人の人として成長し、本来の自分を取り戻していく過程です。本シンポジウムでは、第三者の関わりや共同生活型支援がもつ意義と効果を、現場の実践から改めて問い直します。

プログラム ※時間は変更になる可能性があります

12:00	開場・個別相談ブース オープン
13:00	開会
13:10	基調講演 津富 宏 先生
14:10	共同生活型支援団体のご紹介
14:45	シンポジウム アウトリーチ/共同生活型支援/利用者の声/ これからについて 等
16:30	個別相談ブース
17:00	閉会
17:30	交流会（別会場） 詳細は別途ご案内

シンポジウム登壇者

コーディネーター

津富 宏 静岡県立大学 名誉教授/
立教大学コミュニティ福祉学部 特任教授



パネリスト

下野 六太

参議院議員/
公明党ひきこもりPT座長



牟田 光生

NPO法人教育研究所
理事長



河野 久忠

NPO法人青少年自立
援助センター
理事長



川田 史郎

一般社団法人グッド
ライフジャパン
代表理事



元当事者の方①

元当事者の方②

個別相談ブース 出展団体（五十音順）

NPO法人教育研究所

NPO法人クラウドナイン

一般社団法人グッドライフジャパン

NPO法人青少年自立援助センター

NPO法人青少年自立援助センター北斗寮

NPO法人東北青少年自立援助センター

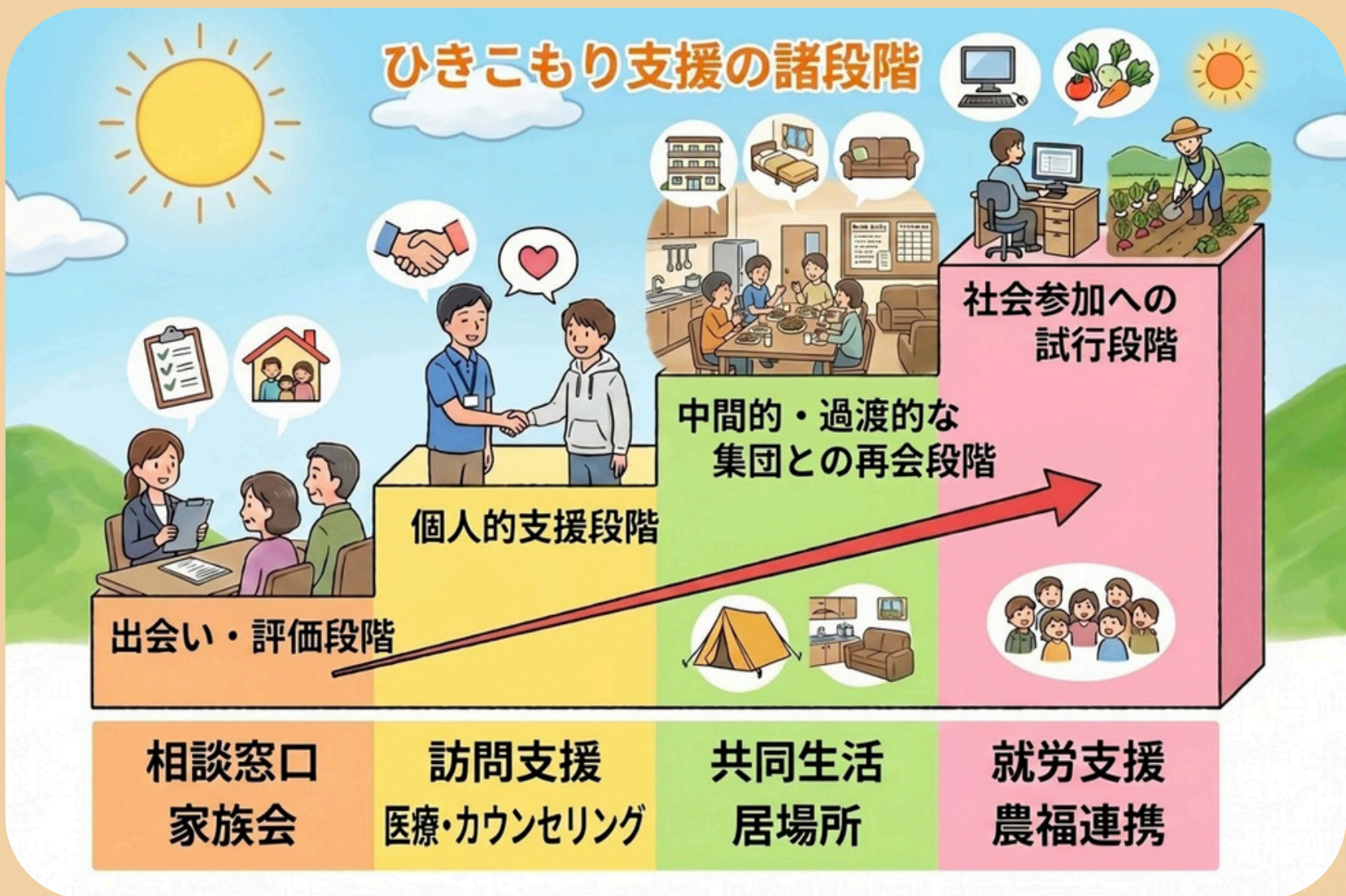
一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター

認定NPO法人北陸青少年自立援助センター

ご相談内容は秘密厳守です。当日その場でのご相談も歓迎します。

共同生活型支援とは？

矯正でも更生でもなく、段階を踏んだ「暮らしを通じた育ち直し」の場です。



※当日は記録のため録画・撮影を行います（参加者の方のお顔が映らないよう配慮いたします）

国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟416

東京都渋谷区代々木神園町3-1

小田急線「参宮橋駅」徒歩約7分／東京メトロ千代田線「代々木公園駅」徒歩約10分

主催・お問い合わせ先

NPO法人共同生活型自立支援機構

contact@genver.jp <https://genver.jp/>



お申込みはこちら



機構HPはこちら

